

子どもは未来をつかみたい

2019年度年次報告 2020年度年次計画
(認定) 特定非営利活動法人**ラオスのこども**



目次 2019年度 第18期 事業報告

この1年	p2
ラオスでのプロジェクト	
I. 本に出会い、親しむ(読書推進活動)	p3
II. 本をつくる(出版プロジェクト)	p4
III. 集い、表現し、学び合う(子どもセンター)	p5
日本での活動	p6
組織の運営	p6
2019年度 第18期 会計報告	p8
2020年度 第19期 事業計画・予算	p9



- ★ 中等学校の図書館整備事業 3校
- ★ 学校図書室(HakArn)整備新規開設 7校
- 奨学金事業 3都県

「ラオスのこども」とは？

はじまり

1982年、ベトナム戦争後の長引く混乱と停滞の中、東京在住のラオス人と日本の友人などが、「ラオスの子どもたちも日本の子どもたちと同じように絵本を楽しんでほしい」と幼稚園のバザーなどで集めた絵本をラオスに送りました。これが「ラオスのこども」の活動の始まりです。

足どり・活動の柱

本も書店も図書館もほとんどなく、読書をする人も少ないラオスでは、多くの先生にとって、絵本は初めて出会うものでした。1990年代に入り、会はラオス語の絵本出版を開始。あわせて、子どもと本とをつなぐ先生のトレーニングなど読書の推進普及に力を注ぎました。また、学校では音楽・図工・体育や部活動が行われていないことから、そうした活動ができる児童館のような「子どもセンター」を各地で開設支援しました。

めざすもの 子どもは未来をつかみたい

「ラオスのこども」の組織の理念は、校正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自

らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくることです。

これまでの取り組み、成果

当会は読書推進活動の拠点として、学校と地域に焦点をあてています。各図書室を訪問し、状況に応じた指導を繰り返し丁寧におこなうことで、図書活動が活発化しています。ラオスの小中高校10,577校(小学校8,849校、中学校1,728校)のうち、325ヵ所で図書室(うち16ヵ所は地域文庫)を開設し、2,732校に図書セットを配付。2,318校でフォローをしました。

出版では、民話、創作絵本、紙芝居や海外作品の翻訳など、多彩な出版をしました。今年度末までに、ラオス語図書224種類 918,255冊(図書189/紙芝居19/教科書類6/ニュースレター10)を現地出版しました。

学校外において子ども同士で様々な活動ができる「子どもセンター」は、これまでに全国14ヶ所の運営を支援してきています。

2019年度 第18期 事業報告 (2019年7月1日～2020年6月30日)

この1年

上半期の活動は比較的順調に進めることができました。一方下半期は、新型コロナウイルス感染症の影響により、日本においてもラオスにおいても、活動が大きく制約されました。東京事務所では3月中旬から事務所はテレワーク体制をとりました。計画されていた織物展やピーマイパーティなどいくつものイベントが中止となり、資金調達に影響を与えています。またプロジェクト管理のためのラオスへの渡航が全くできなくなっています。ラオスにおいても、春先のロックダウンにより、官庁、会社、学校などが一時的に閉鎖されました。ラオス事務所があるヴィエンチャン都でも人々は居住する地域を越えての移動が原則禁止にとなり、約1ヶ月、事務所がテレワーク体制となりました。プロジェクトが進行しているヴィエンチャン県にもスタッフが調整、視察に行くことができない状況となり、各種活動は制約されました。5月になり東京でもラオスでも厳しい状況は緩和されましたが、日本人がラオスへ渡航できない状況や、これまでのようにイベントが実施できない状況は続いています。

活動の課題、重点的取り組み

2019年度は、新たに始まった第8次中期計画に基づき活動を展開しました。国際協力NGOとして活動の質を高め、安定した運営が長期的におこなえるよう取り組むというこれまでの基本方針を継承し、組織運営においては運営の明確化、効率化、プロジェクト運営では論理性を高めることを努力しました。東京事務所とラオス事務所の共有も強化され、組織運営および事業におけるPDCAサイクル(Plan計画→ Do実行→ Check評価→ Act改善)が定着してきています。

懸案であったラオス政府との活動覚書MoUが昨年度締結され、新しく始まった日本NGO連携無償資金協力事業によるヴィエンチャン県での図書館整備を通じた読書推進事業1年目は順調に進み、2月に関係者

ラオス教育データ

小学校の純就学率^{*1}の推移(全国平均)

年度	純就学率(%)		
	計	女子	男子
1995-1996		65	72
2005-2006	84		
2015-2016	98.8	98.5	99.0
2018-2019	99.0	98.8	99.3

中等学校^{*2}の進学率と純就学率 2018-2019

小学校卒業者の中等学校進学率	87.9
中等学校前期課程の純就学率	82.8

*1 純就学率:教育を受けるべき年齢に実際に教育を受けている人の割合

*2 中等学校は7年間あり、1～4年が前期課程、5年～7年が後期課程で、日本の中学、高校レベルにあたる
(出典)教育スポーツ省統計情報センター(2010年度以降は、Annual School Census)

による評価会議で総括することができました。その後3月から2年目の事業を開始したところ、ロックダウンにより中等学校2校での図書館建設が着工が遅れるなど影響がありました。現地業者などの努力により、プロジェクトに大きな影響を与えることなく進捗しています。

資金調達においては、定期的な募金活動を継続して実施し、ある程度の成果がありました。やはり新型コロナウイルスの影響で、重要なイベントの実施など、対外活動が中止となったことや、社会活動の縮みの影響を受けて寄付が大きく減少し、会の運営は大変厳しい状況となりました。しかし6月に皆様に呼びかけさせていただいた特別募金に対し、たくさんの方が応えてください、また持続化給付金をうけたことなどにより、決算では昨年度の大幅な赤字を黒字化させることができました。

このコロナ禍による活動の制約がある中でも、成果を得ることが求められます。その結果、ウェブやソーシャルメディアを用いた広報、支援者サービス、および物販などで、これまでの取り組みを発展させました。ラオス語絵本プロジェクトも「外出自粛中のボランティア」としてメディアに取り上げられたことにより、大変たくさんの方が参加くださいました。ラオス事務所では、ソーシャルメディア上に読み聞かせ動画をあげることで、子ども達がこれまでとは違う方法で本の楽しさに接する機会を提供できるようになりました。また私たちの財産である「図書」を積極的に売ることで、安定した資金調達となるよう取り組みを進めています。このように、今年度は大変困難であった年でしたが、次の発展に繋がる動きも作ることができたといえます。



入学した児童生徒が卒業する割合 2018-2019

県別	小学校	中等学校前期
全国平均	79.8	67.2
アッタプー県	68.7	70.0
カムワン県	75.6	64.4
ヴィエンチャン県	83.6	70.3

小中学校の就学率は年々上がっており、ラオスの教育環境が徐々に改善されていることがうかがえます。一方で、小中学校に入学しても、卒業できない子ども達は小学校で5人に1人、中学校で3人1人います。都市部と地方の格差も開いています。

I 本に出会い、親しむ（読書推進活動）

ラオスではこれまで、図書館や書店が身近にない地域が多く、学校で読み書きを習っても、学校を離れると日常で文字にふれる機会がなく、やがて読み書きができなくなってしまうという状況が続いていました。新しい知識や技術を学びたいと思っても、読み書きができないとチャンスが限られてしまいます。そこで当会では、子ども達に本を届け、読書の楽しみを伝える活動をおこなってきました。ラオス国立図書館、教育スポーツ省、県・郡教育局と連携し、1992年から約3,000校に図書セットを配付し、325校に図書室を開設し、読書習慣の普及を図ってきました。

そして今、私達が取り組んでいるのは、子ども達の「もっと読みたい」「もっと学びたい」を支える活動が、ラオスの人々自らにより担われ、広さと深さを持つようになることです。そのため当会は、学校教員、教育局、保護者、地域住民など子どもを取り巻く人々が本に関心をもてるよう、多方面から改善のためのアプローチをしています。

中等学校での図書館建設整備事業

1) 関係機関との協働枠組みの構築

ヴィエンチャン県ポンサイ中等学校の村教育開発委員会(VEDC)のメンバーに研修を実施し、VEDCと学校図書館の意義や役割を伝えると共に、持続可能な図書館運営となるVEDCのサポートを検討しました。

2) 図書館の建設

日本の建築家と現地施工監理者による監理のもと、ポンサイ中等学校の図書館建設工事が進められ、床面積120m²、78席、本棚10台規模の図書館が10月に完成しました。教員から聞き取りをもとに教科書やカリキュラムに適した本を選び、3005冊の蔵書としました。



3) 教員及び生徒のトレーニング

教員5名と図書館ボランティア生徒15名に対し、ラオス国立図書館と共に「図書館運営研修」を実施し、図書登録、貸出、入館者記録などの図書館の運営方法と、劇・輪読・ゲームなどの図書活用手法を伝授しました。研修後、11月1日に引渡式をおこないました。



4) モニタリングと評価

図書館運営記録や関係者に対するインタビュー調査から、運営状況を確認しました。その結果、1日平均192名の利用があり、全校生徒の18%に達し、目標の8

%を大きく上回りました。また、研修を受けた全ての教員が、図書を活用した授業や読書推進活動を実施するという成果を得られました。日本人専門家と評価分析の上、現地事業関係者共に、事業の実施と成果について検証しました。また教育局や学校関係者と共に学校図書館の次年度運営計画を検討しました。

5) 2年次の事業開始

2020年3月より2年次の事業を開始しました。2年次はヴィエンチャン県のサカ中等学校とヒンフープ中等学校において図書館を開設します。

図書館建設は、1月に業者と施工場所を最終確認していた為、4月に業者着工しました。3月以降は日本から建築家が現地へ渡航できない状況ですが、現地の業者や施工監理者と連絡とり工事を進めています。また、4～5月に実施予定であった会議と研修は、新型コロナウイルスの影響で6～7月に延期しました。

(日本NGO連携無償資金協力事業)

7ヶ所の小中学校に図書室をオープン

学校図書室の新規開設は、一昨年度災害に遭ったアッタプー県を含む7か所で実施し、開設時には、担当教員に図書館運営研修をおこないました。

既存図書室のフォローアップ活動は、合計19校で実施しました。運営フォロー研修を4校、訪問聴き取り調査を8校、電話聴き取り調査を7校にておこないました。本期は、近年の課題であったフォローアップ活動に力を入れ、例年に比べ実施数を大幅に増やすことができました。これ以外に補充図書セットを23校に配布しました。さらに4月にフォロー研修を3校にて実施予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により延期となりました。

(ご支援:笠原岳夫、福岡那の香ライオンズクラブ、緊急募金、キヤノン㈱、(公財)ベルマーク教育助成財団)



事務所併設子ども図書館の活動状況

週6日の開館を継続し、1日平均26人の来館者数を維持しています。年間で新たに3つのイベント、「ラオス伝統お菓子作り」「日本の大学生とラオスの子ども達との交流会」「インターによる絵本の世界を楽しむ企画」を実施しました。また、下田尊久専門家の指導により、ラオス事務所スタッフに対し「図書の分類と配架」「図書館展示」「学校図書館と授業の関係作り」の実務研修をおこないました。イベントとして新規企画を実施できましたが、日常の活動の改善については検討する時間が取れませんでした。また、コロナ禍の学校閉鎖に伴い、3月末より8月末まで併設図書館も休館しました。



II 本をつくる（出版プロジェクト）

ラオスでは、首都でも書店や図書館がほとんど見当たらず、本を目にする機会がありません。子どもたちが本に親しむには、ラオス語で書かれたものが不可欠なことから、当会では1990年から絵本を中心にラオスでの出版を手がけてきました。作家がほとんどいない中、日本人やタイ人の専門家による絵本作りセミナーを開いたり、コンクールを通して若手作家を発掘・育成し、これまでに224点918、255冊の本や紙芝居を出版しています。

近年は消費社会が進み、ファッションや流行情報を発信する雑誌も登場し、出版を取り巻く状況は急速に変化しつつあります。首都では図書を販売する場所が少しずつ増えていますが、一方で、子ども向けの書籍はバラエティが少なく、質の向上が課題です。私たちは「子どもの心に灯をともす」ような、質の高い本作りを目指しています。

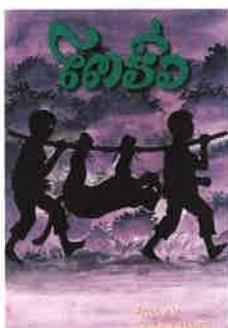
人気の図書2点7,000冊を出版

再版1作品、新刊1作品の計7,000部を出版しました。

『トーフア(雨もり)』 第2版 4,000部

文:オ オー 絵:コンレー ナインハン

ご支援:学習院女子大学 絵本出版指定募金



1999年に出版してから絶版になっていた作品です。暗闇の中で泥棒とトラが鉢合わせする、ちょっとぴり愉快なラオスの民話を題材にしたもの。ラオス人作家が、絵本作家わかやまけんさんにアドバイスいただきながら完成させました。

『おおきなかぶ』 初版 3,000部

文:A.トルストイ (日本語訳:内田莉莎子 ラオス語訳:

チャンタソン インタヴォン) 絵:佐藤忠良

ご支援:募金2019 キヤノン株式会社



これまで、翻訳を貼り付けて紹介していましたが、ラオス国内で非常に人気の高い話であることから、ラオス語版を出版することを決定しました。日本語の出版元である福音館書店との出版契約や、ラオスの印刷業者とのやり取り、色校正などについて、専門家として新藤雅章理事や海外出版コーディネーターの高野直子さんからアドバイスを頂きながら製作しました。



今期計画していたスタッフ対象の図書制作業務に関する研修は、実施する余裕がなかったため、次期に実施予定です。また、市場を意識した出版のための現状調査の一環として、毎月の販売実績のデータ集積をおこないました。

現在のラオス事務所スタッフは再版の経験は有しているものの、新刊を出版する経験は不足しています。専門家の助力を得ながら出版を経験することで、スタッフの人材育成をおこなっています。

III 集い、表現し、学び合う（子どもセンター）

ラオスの学校は、座学による暗記が中心で、音楽、図工、体育はカリキュラムはあっても、指導ができる先生がいない、道具や材料がないといった理由で、子どもたちの情操面を伸ばすような活動をする機会がないという状況がありました。そんな中、1994年に、当会などの協力によって、自己表現活動ができるラオス初の子ども施設として、情報文化省による「子ども文化センター」が開設されました。その後、活動は定着し、同様の施設が全都県に設置され広がりました。しかし近年は、社会の変化にともない、子ども達のニーズが多様化することで、来館者が減少し、活動が停滞している館が増えてきています。当会では、自立を促す方向から、各センターの個別支援を減らしてきましたが、センターの活動再建のために、再度サポートすることを検討しています。

ラオス事務所では、1~2月にかけて、これまで当会が支援してきた子どもセンターのうち6か所（ヴィエンチャン都1か所、サイヤブリ県4か所、ボリカムサイ県1か所）に対して、状況把握調査を電話による聴き取りで実施しました。

東京事務所では、1月18日に、「元青年海外協力隊員と一緒に、ラオスの児童館『子どもセンター』について考えよう！」と称した活動ミーティングを開催しました。子どもセンターで活動してきた元協力隊員5名をパネラーに迎え、センターの現状と課題の共有や今後の可能性について、27名の参加者とともに意見交換をしました。



これらの調査内容を踏まえ、当会のこれまでの経験やスキルを活かした支援・連携方法について、事業バランスや資金の状況なども鑑みながら検討します。

IV もっと学ぶことが出来るように（奨学金事業）

タイの企業The Siam Cement Public Co., Ltd.(SCG)より、8年目の受託事業です。これまでに引き続き、中等学校5年～7年生が対象で、教育局と協力し、ヴィエンチャン都全域及びカムワン県4郡にあるすべての公立中学高校に願書を配布ました。書類選考後、審査員が家を直接訪問し面接をおこない、ヴィエンチャン都160人、カムワン県140名、計300名の奨学生を決定し、奨学金を給付しました。

なお、新型コロナウイルスの影響もあり、主催企業が次年度の奨学金事業をラオスで実施しないと決定したことから、当受託事業は終了することとなりました。



応募生徒の自宅を訪問し家族にインタビューする様子



また、今期は、当会独自の新規奨学金事業として「ALC奨学金制度」を立ち上げました。マンスリーサポーターのご支援を活用しています。

新規事業のため、学校の状況調査や協議など、ラオス事務所が半年間にわたり準備をすすめ、実施にこぎつけることが出来ました。図書館整備事業対象校であるヴィエンチャン県ポンサイ中等学校において実施することで、相乗的な効果を狙いとしています。

11月に募集を開始し、書類選考の後、12月に面接による選考会議をおこない、4～7年生の計5名の生徒を決定し、奨学金を給付しました。その後、7年生の2名は無事に卒業することができました。

（ご支援 マンスリーサポーター、指定寄付）

日本での活動

日本では、活動を広く知らせ、ご支援、参加の呼びかけなどをおこなっています。また、どなたにも参加いただける、ラオスの文化や食を紹介するイベントや、学校に出向いて国際理解教育の参加型プログラムも実施しています。いずれのイベントもインターンやボランティアの仲間とともに作り上げています。

中学校・高等学校・大学で授業

パルシステム神奈川ゆめコープと協同し平塚市立横内小学校へ開発教育プログラムや絵本作り体験プログラムをおこないました。その他、町田市立真光寺中学校（学習院女子大学開発教育チームと協力）湘南学園中高図書委員会、駒澤大学、藤女子大学、女子美術大学附属中学校に講師派遣をおこない、ラオスや国際協力、当会の活動への理解を促進することができました。

参加型プログラム

●ラオス語絵本プロジェクト

今期のプログラム参加は94件で、合計690冊の絵本が作成されました。新型コロナウイルス感染拡大防止策による外出自粛要請中、「自宅ができるボランティア」として東京新聞に掲載されたこともあり、今期は申込数が急増しました。



●書き損じハガキの収集

今期は88件、書き損じ・使い残しハガキ1,828枚、未使用切手153,470円、計258,085円相当のご支援をいただきました。外出自粛中、家を片づる人が増えたため、切手やはがきの寄付に繋がったと考えられます。より収集を拡大するために、企業や自治体との共同などプロジェクトの立て方を検討する必要があります。

イベント開催・活動ミーティング

上半期は、グローバルフェスタ2019への参加や東京アメリカンクラブでの展示会、英国風喫茶メイフィールドでの販売会を実施し、ラオス理解や活動理解を広めることができました。一方、下半期は、恒例の京都織物展、ピーマイパーティ、ラオスフェスティバルが中止となりました。

会員、ボランティア、支援者が集まる活動ミーティングは3回実施され、のべ53名が参加しました。特に1月は、「子どもセンターを考えよう！」という企画で、運営をボランティアが担い実施し、新しい参加者が加わり、活発に意見を交換することができました。しかし、2月の駐在スタッフ帰国報告会と3月の活動ミーティングは、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施を中止しました。

組織の運営

1. 全体運営

ラオス事務所の組織運営能力を強化し、東京事務所と連携をより深めることを念頭に、組織運営、プロジェクト実施において、今年度も計画→実行→評価→改善のPDCAサイクルを重視した運営を継続しました。

コロナ禍により、現地でのプロジェクト運営に影響が出たほか、国内でもイベント中止が相次ぎ、資金調達において困難が生じました。しかし多くの方々よりご寄付を頂き運営を何とか継続させることができました。この逆境に対するために、ソーシャルメディアによる広報、物販、ラオス語図書販売などに取り組みました。

■理事会

理事7名、監事2名により運営が担われ、年3回理事会を開催し、財政状況、資金調達、プロジェクト運営、MoU更新についての報告、中期計画の振り返りの討議のほか、組織運営強化の方策などが話し合われ、参加は延べ22名でした。

■通常総会

9月14日、2019年度通常総会を活動会員33名（書面表決者、委任状含む）、活動協力者6名、計39名が参加し、ライフコミュニティ西馬込で開催しました。

2. 東京事務所

■体制

年間を通じて常勤専従スタッフ2名、非専従事務局長1名で運営を担当しました。今年もまた、会計ボランティアスタッフ2名、インターン5名の継続した協力により大いに事務局が支えられました。

■事業運営

長年にわたり取り組んできた学校を拠点とする読書推進活動の発展として、ヴィエンチャン県における中等学校での図書館整備を通じた読書推進事業が本格化しました。村教育開発委員会と運営について契約が結べたことは、今後の読書推進活動の持続的展開において、大きな成果に繋がると考えます。

■組織運営

日本人駐在員の赴任により事務所間のコミュニケーションを改善することができました。さらに、東京から事務局長やアドバイザーが訪ラオし、調整協議をおこなうことで共有性が高まり、年次での活動振り返りや計画策定がラオスでの討議を経て決定されるようになりました。支援者が税優遇を受けられる「認定NPO」の更新が、ボランティアスタッフの尽力により完了できました。有効期間は2024年11月25日までとなります。

■資金調達・広報

活動を紹介するために各種情報発信をおこないました。ホームページの更新は順調におこなわれ、スタッフブログもラオスからの発信が増え好評です。SNSによる広報は、フェイスブック発信を強化しました。

紙媒体としては、東京新聞に2回掲載された他、「ラオスのこども通信」を年3回計4,500部、年次報告書を1,500部発行しました。また、奨学金支援に関する「マンスリーサポーター通信」を新たに発行しました。

特別募金は2回実施し、夏募金冬募金共に、達成率は91%となりました。また、WEB上で図書や小物を販売するサイトBASEでショップを開設しました。

ラオスの絵本と小物屋さん



これらの各種媒体を使った広報活動の強化により、寄付者、支援者の人数は少しづつ増加しています。しかし、より効果的にメッセージを伝えるために、広報のターゲットを明確化と、デジタル発信の強化が必要とされています。

■人材育成

定期ミーティングにおいて、アドバイザーにより募金、広報、事業評価について継続的にトレーニングを受けました。また、スタッフは事業評価研修に参加し、活動の質を高めるための学びの機会を持ちました。

3. ラオス事務所

■体制

1月に1名が入職し、年間を通して5~6名の現地スタッフと現地アドバイザー1名、日本人駐在員1名により運営されました。

■組織運営

定期的なスタッフ会議の開催や東京から派遣されたアドバイザーによる繰り返しの研修により、スタッフが徐々にNGOとしての活動全体を見通すことができるようになってきました。振り返りや提案など意見交換も盛んとなってきています。日本人駐在員と共に、資金調達

のための図書販売活動や、コロナ禍にある児童を対象とした読み聞かせ動画の作成など、新たな取り組みも実施できました。

■資金調達

図書販売について、月ごとの販売実績記録のフォーマットを作成し、売り上げデータを一括で把握できるように改善しました。図書販売委託先は34か所から31か所に減少しました。

フェイスブックなどの広報や、ラオスで活動するNGO団体への本の売り込みを促進するため、販売本リストのリニューアル、訪問する国際NGOのリスト作成などをおこないました。

■人材育成

タイでの学校図書館の活動事例視察は、準備を進めたものの、タイ側との交渉、研修期間の確保、新型コロナウイルスの影響もあり、実施には至っていません。

『おおきなかぶ』ラオス語版製作では、専門家(高野直子さん、新藤雅章理事)のアドバイスを受けながら、出版・印刷のプロセスを進めました。

ALC図書館の改善や日本NGO連携無償資金協力事業での学校向けの研修を見据えて、下田尊久専門家によるスタッフへの実務研修を実施しました。



■広報

フェイスブックやスタッフブログ、ニュースレターなどで、ラオス事務所の活動やイベントなどの情報発信をおこないました。今期は、ラオス国内での団体認知度を高めるため、ラオス事務所のフェイスブックページを開設しました。また、新型コロナウイルスによるロックダウンの期間、自粛生活の子ども達のために、スタッフが



本や紙芝居を読み聞かせした動画をYouTubeチャンネルで配信し、大変好評です。



■インターン・ボランティア

ラオス事務所で、日本人の学生インターン1名を3ヶ月間受け入れました。ラオス国立大学の学生などのインターンやボランティアも随時受け入れています。

2019度 第18期 会計報告 (2019年7月1日～2020年6月30日)

活動計算書

科 目	金 額
I 経常収益	
1.受取会費	734, 000
2.受取寄付金	5, 501, 405
3.受取助成金等	32, 531, 400
4.事業収益	5, 215, 560
5.その他収益	10, 547
経常収益計	43, 992, 912
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	12, 355, 393
(2)その他経費	24, 750, 063
事業費計	37, 105, 456
2.管理費	
(1)人件費	2, 599, 978
(2)その他経費	4, 052, 211
管理費計	6, 652, 189
経常費用計	43, 757, 645
税引前当期正味財産増減額	235, 267
法人税等	70, 000
当期正味財産増減額	-4, 498, 781
前期繰越正味財産額	3, 918, 840
次期繰越正味財産額	4, 084, 107

貸借対照表

科 目	金 額
I 資産の部	
1.流動資産	30, 151, 147
資産合計	30, 151, 147
II 負債の部	
1.流動負債	26, 067, 040
負債合計	26, 067, 040
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産	3, 918, 840
当期正味財産増減額	165, 267
正味財産合計	4, 084, 107
負債及び正味財産合計	30, 151, 147

事業別損益の状況

科 目	経常収益計	経常費用計
出版事業	2, 004, 343	1, 181, 257
中等学校の図書館整備	20, 036, 048	18, 470, 868
学校図書室の整備 *1	2, 431, 868	3, 578, 413
子どもセンター事業	36, 378	107, 557
奨学金事業	11, 764, 297	9, 959, 249
交流事業 *2	700, 612	603, 802
収益事業	4, 515, 042	3, 204, 310
事業部門計	41, 488, 588	37, 105, 456
東京管理費	2, 030, 292	4, 303, 942
ラオス管理費	474, 032	2, 348, 247
管理部門計	2, 504, 324	6, 652, 189
合 計	43, 992, 912	43, 757, 645

*1 図書室整備事業には、現地事務所併設図書館運営費、読書推進プロジェクト統括費用が含まれます。

*2 交流事業は、各種イベントや講演会費、ラオス語絵本プロジェクト、講師派遣・訪問受入などが含まれます

NPO法人会計基準に沿った会計システムで会計処理をおこなっています。より詳しい資料は、当会ホームページにてご覧いただけます。

今期の資金調達は、夏と冬の特別募金は90%を超える達成率となり、寄附金はある程度の成果がありました。やはり新型コロナウイルスの影響で、重要な資金源となるイベントが中止となつたことや、社会活動の縮みの影響を受けて、会の運営は大変厳しい状況となりました。しかし、持続化給付金を受けることができることにより、決算では何とか黒字化させることができました。

監事からコメントいただいたように、資金調達の計画を立て、受け取った補助金事業が遅滞なく進められるよう留意していくとともに、補助金事業がなければ、会の運営が厳しいという状況を改善するために、早急な検討・行動をしていく必要があります。先が見通しにくい状況は続いており、経済活動も低下傾向にあることから、思い切った財政への取り組みが必要です。

監査報告書

特定非営利活動法人 ラオスのこども
代表 チャンタソーン インクワォン 様

2020年8月29日

特定非営利活動法人 ラオスのこども
監事 矢崎芽生 様
監事 脇田康司 様

私たち1、特定非営利活動法人ラオスのこども 第18期2019年7月1日から2020年6月30日までの事業年度における、収支及び会計の監査を行い、次の通り報告する。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について。帳簿ならびに開帳書類の閲覧など。必要と思われる監査手続きを用いて、財務諸表ならびに収支計算書の正確性を検討した。
- (2) 営業監査について。理事会に出席し、理事及び事務局から業務の報告を聞き、開帳書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを用いて、営業の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 監査計算書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の記載事項と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 営業報告書の内容は、眞実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不適の行為または法令の定款に違反する重大な缺失はないを認める。

以上

2020年8月29日に脇田康司監事(弁護士)、矢崎芽生監事(公認会計士)により、監査がおこなわれ、上記の通り、監査報告書を受け取りました。

2020年度 第19期 事業計画 (2020年7月1日～2021年6月30日)

□方向性

2020年度は、昨年度に引き続き第8次中期計画に基づき、国際協力NGOとして活動の質を高め、安定した運営が長期的におこなえるよう組織運営の明確化、効率化、プロジェクトでの論理性を高める努力をおこないます。また「読書推進活動」、「出版プロジェクト」、「子どもセンタープロジェクト」を中心にプロジェクトをすすめるとともに、ラオス事務所の能力強化や東京事務所での資金調達力の強化に取り組んでいきます。

ラオスでは、継続して中等学校の図書館整備を通じた読書推進事業の着実な実施に取り組みます。しかし、新型コロナウイルスにより、今後再びプロジェクト運営に制約が生じる恐れがあります。日本では、既にいくつかのイベント開催が中止となり、寄付の減少などの影響が出ています。加えて、これまで8年間にわたり、ラオス事務所で受託してきた、タイの企業による奨学金事業が終了したことにより、経常経費のあらたな確保が必要となっています。

今期はこのような状況下で計画がどこまで実行できるか、また予想される経済不況下で資金調達がどこまでできるか、見通しが立てにくい状況があります。これに対しては、プロジェクト運営での柔軟な対応と、資金調達のより一層の努力が必要です。資金調達は会の存続の危機に直結するとの認識から、理事会を先頭に、新たな工夫を加え改善に積極的に取り組みます。具体的には、特別募金による資金調達を強めるほか、ホームページやフェイスブック、ユーチューブなどのソーシャルメディアを積極的に利用し、ラオスおよび東京での図書販売を強化します。さらに、変化する社会構造を意識し、ターゲットを明確にした各種広報活動、発信活動の展開により、活動の認知度を高め、新しい支援者層を開拓します。また、事業において、現在進めている読書推進事業を今後どのように発展させるか、地域との連携をどのように安定させ広げができるかを検討し、次のプロジェクトの方向性を定めます。

今期の運営責任を持つ理事・監事は以下の9名です。

理事	・飯川 桃子	・塩谷 光	・新藤 雅章	・チャンタソン インタヴォン	・西村 恵子
	・野口 朝夫	・森 透			
監事	・矢崎 芽生	・脇田 康司			

ラオスでのプロジェクト

I. 子どもたちが読書に親しむ環境を整える「読書推進活動」

●中等学校の図書館整備を通じた読書推進事業

生徒数の増加に比し教育環境の整備が遅れている中等学校で、図書館を整備する事業を3年間に渡り実施しています。2～3年目にあたる今期は、新たにヴィエンチャン県ポンホーン郡、ヒンフープ郡の中等学校2校で図書館を整備します。図書館を建設すると共に、教員や生徒へ図書館研修を実施します。さらに、学校を管理する郡教育スポーツ局と村教育開発委員会とが連携する体制を作ることで、活動の定着と持続を目指します。また、1年目に図書館を建設したポンサイ中等学校では、図書館運営の追加研修を実施します。

●学校図書室の整備

小中学校の空き教室に本と本棚を提供し、図書室運営に関する教員研修をおこない、学校に図書室を整備することで、子どもたちが日常的に図書に接する機会をつくる活動を継続します。

今期は、新規開設は1か所で実施します。また、これまでに設置してきた学校図書室の停滞化を防ぐための活動を強化し、15ヵ所でフォローアップを実施する予定です。

●ALC図書館(ラオス事務所併設図書館)活動

昨年度のスタッフ研修を生かし、配架や展示を工夫し読書に興味が湧く空間作りや、子どもたちが主体的に参加するアクティビティを企画・実施することで、子どもたちの満足度を高め、来館者数の増加を目指します。

●新規事業の案件形成

これまでの事業内容を発展させた読書推進事業を2年後に開始するために、案件形成を実施します。一昨年終了した「学校図書室の地域への展開事業」の事後調査をおこなうと共に、住民による地域文化継承活動の検討など、様々な角度から、案件形成のための情報を収集し、展開すべき案件を検討します。



II. 子どもたちに良質な本を提供する「出版活動」

引き続き、専門家のアドバイスを得て、質の高い図書を計画的に出版します。今期は、3タイトルの図書を出版する計画です。また、スタッフが図書製作に関わる技術を習得できるよう基礎研修を実施します。さらに、市場を意識した出版のための調査や新人作家を発掘し、新たな出版に繋げます。

III. 子どもたちの居場所と音楽や創作表現活動の機会[・]を提供する「子どもセンター運営支援」

子どもたちの環境が変化し、活動が停滞するセンターが増える中で、運営安定のためにどのようなアドバイスや支援ができるかを引き続き検討します。昨年度の実態調査結果や、元青年海外協力隊員との情報交換内容を踏まえ、新たな展開の可能性を追求します。

IV. 奨学金事業

昨年度より開始した独自の奨学金事業は、ヴィエンチャン県ポンサイ中等学校に加えて、サカ中等学校、ヒンフープ中等学校から各校5名を選考し、合計15名の生徒に対して、奨学金を給付する。

日本での活動

ラオス理解、活動理解の促進となるよう、目的、成果を明確にした上でイベントを実施・参加します。また、社会情勢に対応し、オンライン開催などを模索するとと

ても、新たな支援者、協力者の開拓を図ります。

学校などを訪問して実施する「出前講座」を、年間2～3件、開発教育として継続して実施します。また、「ラオス語絵本プロジェクト」については、メディアへの広報を強め、プロジェクトの社会的認知度をあげ、参加者を増やします。個人協力者に加えて、企業・学校・団体と連携して実施し、年間30件、600冊の図書を完成させラオスへ送ることを目標とします。

資金調達及び支援者拡大として、引き続き、書き損じ葉書、未使用葉書・切手を収集します。

組織の運営

引き続き「市民性を大切にしながら、より専門性をもつNGOとして」安定した活動が継続するよう、東京、ラオス両事務所間での情報共有を深めます。

事業成果の継続と発展を重視しつつ、読書推進の専門家・活動家と連携し、プロジェクト運営の質を高めます。会員および支援者による継続支援のツールとして、きめ細かい「広報」活動をおこないます。

運営において、事業進捗、会計状況などの報告書が定期的に作成され、共有し、両事務所の情報共有が確実となるようすすめます。事務所運営やイベント等の担い手としてボランティア、インターンの参加を高めます。専門家とアドバイザーの指導と協力を受けつつ、募金、広報、事業評価、図書館運営、出版の領域でスタッフの実務研修を重ねます。

2020年度 第19期 予算 (2020年7月1日～2021年6月30日)

科 目	金 額
I 経常収益	
1.受取会費	770,000
2.受取寄付金	5,098,000
3.受取助成金等	29,870,000
4.事業収益	3,500,000
5.その他収益	20,000
経常収益計	39,258,000
II 経常費用	
1.事業費	
(1)人件費	12,350,000
(2)その他経費	20,830,000
事業費計	33,180,000
2.管理費	
(1)人件費	2,600,000
(2)その他経費	3,370,000
管理費計	5,970,000
経常費用計	39,150,000
税引前当期正味財産増減額	108,000
法人税等	70,000
当期正味財産増減額	38,000

これまでの寄付金及び事業補助金を維持しつつ、「ファンドレイジング」に基づき、新たな寄付者を獲得するために、対象を明確に意識した発信活動を続けます。特に、ソーシャルメディアを利用した広報活動に積極的に取り組み、年2回の特別募金の実施を継続するとともに、マンスリーサポーター制度を促進します。また、遺贈制度を広報するパンフレットを作成し、受付を開始します。さらに、ウェブ上で、会が出版するラオス語図書や小物を販売するBASEショップの魅力度を上げ、販売実績を伸ばします。

ラオスにおいては、図書販売を資金調達手段として位置づけ積極的に取り組みます。販売はこれまでのルートに加えて、国際機関、国際協力NGO、私立学校などに広げます。販売実績のデータを整理し分析するとともに、フェイスブックなどを用いた図書販売の広報に取り組み、販売量の増加を目指します。



ໜົວຕັການ



ມືຖານພົນເມືອງ ອັດເຊຍ

ເລິກເຄີຍໄດ້ບໍ່
ແລ້ວ ໄກສະຕອນຍ

特定非営利活動法人ラオスのこどもは、
今なお十分な教育を受ける機会がないラオスの子どもたち
の成長を願い、1982年から日本とラオスを中心に活動
を続けている国際協力NGOです。あもに、「図書・紙芝居の出版」「学校・地域での図書室設立」「先生向けの図
書室運営・図書活用の研修」「作家・編集者の育成」、子
どもが集い遊び学べる「子どもセンター」の運営支援など
を行い、子どもが自ら学ぶ力を伸ばす環境づくりに取り組
んでいます。

組織の理念

「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献する
ことを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を
主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しなが
ら、読書に親しみ環境をつくります。

(認定) 特定非営利活動法人**ラオスのこども**

〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303
TEL/FAX 03-3755-1603 E-mail alctk@deknoylao.net
<http://deknoylao.net>